研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-110	A-11C	21-071	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol intake and total mortality in 142 960 individuals from the MORGAM Project: a population-based study

MORGAM プロジェクト参加者 142960 人のアルコール摂取量と総死亡率：人口集団調査

執筆者

Di Castelnuovo A, Costanzo S, Bonaccio M, et al.

掲載誌

Addiction. 2022 ;117(2):312-325. doi: 10.1111/add.15593

キーワード	PMID
アルコール摂取量、HDL コレステロール、がん死亡、心血管死亡、コホート研究	34105209

要　旨

目的：中等量の飲酒者は生涯非飲酒者や大量飲酒者よりも長生きすると報告されているが、アルコール摂取と慢性疾患との関連は、多くの要因が介在し、複雑である。そこで、飲酒量と総死亡および死因別死亡リスクとの関係を検討した。

方法：MOnica Risk, Genetics, Archiving and Monograph (MORGAM) プロジェクトは、16 のコホート研究（欧州 10 カ国 15 コホート、オーストラリア：1 コホート）を統合した多国籍の追跡研究である。本プロジェクト参加者のうち、飲酒データ欠損者を除外した 142960 人（平均年齢 50 歳、男性 53.9%）を本研究の対象とした。質問により平均飲酒量を尋ね、エタノール 10-12 g を 1 杯とし、1 日の摂取量を評価した。さらに、飲酒頻度と飲酒習慣を尋ね、「過去飲酒者」「生涯非飲酒者」を識別した。参加者を追跡し、国や地域の健康情報システムの記録から死因別死亡を確認した。モデル 1 で性別、コホート、喫煙、教育レベルを、モデル 2 ではさらに BMI、糖尿病、高血圧、心血管系（CV）疾患既往、がん既往を調整し、Cox 比例ハザードモデルを用いて、アルコール摂取カテゴリーごとの死亡ハザード比［95%信頼区間（CI)］を、生涯非飲酒者を対照とし推定した。アルコールを制限付き三次スプラインとしてモデル化し、死亡リスクとの連続的な関係を検討した。媒介分析には、Baron & Kenny アプローチに基づく%MEDIATE マクロを使用した。

結果：生涯非飲酒者と比較した総死亡リスクは、10g/日未満の飲酒者で 11%［95%CI, 7-14%］低く、20g/日以上の飲酒者で 13%［95%CI , 7-20%］高かった。CV 死亡についても、すべての変数の欠損データに多重代入を行った後は、同様の関連が認められた。がん死亡リスクは、10 g/日未満では関連を認めなかったが、20g/日以上では 22%［95%CI , 10-35%］高かった。アルコールと致命的転帰との関連は男女同様で、ワインを好む人ほど顕著であった。媒介分析により、HDL コレステロールは低アルコール摂取と総死亡（2.9%）、CV 死亡（18.7%）の関連性を説明した。

結論：生涯非飲酒者と比較して、1 杯/日未満の飲酒はがん以外の死因別死亡リスクが低く、2 杯/日以上の飲酒は総死亡、CV 死亡、特にがん死亡のリスク上昇と関連していた。